



今シーズンのインフルエンザ

感染制御部

いよいよインフルエンザのシーズンを迎えます。阪大病院でも、職員の皆さんへのインフルエンザワクチンの接種を11月15日より開始いたします。そこで今シーズンのインフルエンザの動向と対策について考えてみます。

■ 現状と予測

去年は、新型のH1N1流行型がこの時期、かなり広がっていたのですが、今年はまだ流行はしていません。今年も引き続きH1N1型が主体ですが、B型、香港型も混在して発生するでしょう。H1N1ソ連型は出ないと予測されます。オーストラリアやニュージーランド、南アフリカなどの南半球の傾向を見ると、8割がH1N1流行型なので、北半球も同じような傾向だと予測できます。

毒性が非常に強く、致死率も高い鳥インフルエンザH5N1型が新型インフルエンザとして発生する可能性はまだ残っています。注意深い監視が必要です。また、今のH1N1型がもう少し毒性が強くなるという予測もありますが、現在、南半球では毒性が強くなっていないので、おそらく今ぐらいの毒性ではないか、と推測されます。いずれにしても、通常のインフルエンザは99.9%治る病気なので、そんなに恐れることはありません。

■ 予防と対策

まず第一にワクチン接種です。アレルギー等で接触が出来ない人以外はできるだけ接種することをおすすめします。次に、せきエチケットです。インフルエンザは飛沫感染で広がりますので、せきをする時は必ず口を覆ってください。マスクは飛沫を予防するのに効果的です。かかっている人は人前では着用するようにしましょう。また、かかりたくない人もマスクを着用することで飛沫からの暴露を防ぐことができます。インフルエンザは接触によっても感染するので手洗いも重要です。そして多少とも効果があるのが、うがいです。

熱が出たら、我慢しないで仕事を休んで、近所の病院に行ってください。工作中に熱が出てもすぐにマスクを着けて、感染制御部に連絡してください。高熱があるのに我慢するのはよくありません。48時間以内に治療しないと、薬の効果が薄れるからです。薬をもらって家でゆっくり休養することで。インフルエンザは家で治せる病気なのです。

家庭での注意も大切です。基本は手洗いと栄養、休養が大切です。小中高、大学生のお子さんは、学校で過ごす時間が長いので、感染を避けるのは難しいと思います。感染を広げないために自宅では部屋で一人で寝て、食事をしっかり取らせてください。幼児で意識障害があったり、話のつじつまが合わな

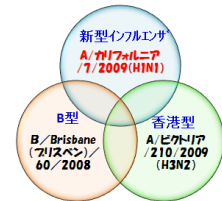
かったり、けいれんが起こったりしたらすぐに病院を受診しましょう。

同居されている高齢者がいらっしゃる場合には、インフルエンザの後、細菌性の肺炎にかかる危険性があります。熱が下がったのに、ぶり返したり、黄色い痰が出たりしたら、肺炎かもしれません。インフルエンザで気道が痛めつけられたところに、肺炎球菌などの細菌が入って発症します。一番多い肺炎球菌には5年間有効のワクチンがあるので、高齢の方にはインフルエンザの予防接種と同様に肺炎球菌ワクチンを接種することをお勧めします。

■ ワクチン接種

今年流行する株はH1N1流行型と、季節性のB型や香港型です。今年はこちら3種類を合わせたワクチンとなっているため、一度に打てます。すべて

今シーズンのインフルエンザワクチン



国産です。12月初めごろまでに接種してください。ご家族の方で高齢者や乳幼児、若い人でも基礎疾患のある人はできるだけ接種してください。

昨シーズン新型インフルエンザに感染した人ではワクチンは必要ないと思われるかもしれませんが、B型や香港型にかかるかもしれませんので、安心してはいけません。5400万回分のワクチンが用意されていますから、十分対応できます。去年のことがまだ、記憶に残っているので、ワクチンに対する意識は高いと期待しています。まれに副作用がありますので、接種後30分間は院内でゆっくりしてください。ワクチン接種は最大の予防策です。

■ 医療の継続

強い毒性を持つ鳥インフルエンザH5N1型は現在致死率60%の恐ろしいものですが、これが流行性になったとしても高い医療水準を誇る日本では、1~2%に抑え込むことが可能だと信じています。そのために、一番大事なことは医療を継続することです。

昨シーズンの新型インフルエンザ流行の際には、医療機関に発熱外来が設けられましたが、人口30万人の吹田市でわずか3か所でした。これでは大流行は防げません。昨年、うまくいったのは一般の病院・診療所で診療を開始したからです。阪大病院でも、安全に医療を続けるために、予防薬を投与しながら診療を続けられるような体制を確立する必要があります。次に来る新しいタイプのインフルエンザに備えて、常に警戒を怠らないようにしたいと思います。